

平成27年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT27205 「離れた人に伝えたいーくらべてみよう、今のメールと奈良時代のメールー」



開催日：2015年7月24日(金)

実施機関：奈良女子大学

(実施場所) (奈良女子大学・奈良文化財研究所)

実施代表者：黒田 洋子

(所属・職名) (古代学学術研究センター・協力研究員)

受講生：中学生5人・小学生5・6年生2人

関連URL:

### 【実施内容】

草書体で、しかも特別やっかいな奈良時代の特殊漢文で書かれた書状に、漢文の読み方を知らない子供達をいかに引きつけるか。その上、教科書の学習とは異なる、大学での研究プロセスをどうやって体験してもらうか。思案の結果、ロゼッタストーンのエログリフ解読の糸口よろしく特定の言葉、すなわち子供達にもわかりやすい「あいさつの動作」の言葉と「現代のメールやラインのスタンプ」の共通点に注目することによってプログラムを展開した。

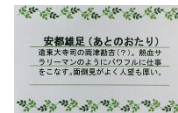
### 【工夫した点】

- ①当日は観察を中心に進行できるよう、(a)正倉院文書、(b)奈良時代の手紙、(c)木簡、の三つについて子供向けの解説を作成し事前に参加者に配布した。
- ②研究対象が50年前の白黒写真であるため子供の興味を引きつけるための工夫が必要であった。試行錯誤の結果、拡大写真を光沢紙にコピーし薄いパネルに貼ることで、ローコストで本物そっくりの大型書状レプリカの作成を実現。会場の両側に並べ子供達が自由に手にとって見られるようにした。
- ③展示した全書状について写真とともに(a)常用漢字になおしたもの、(b)訓読文、(c)子供にわかりやすい現代語訳、をつけて解説した「おてがみ解説集」(全57頁)を作成し観察・解説の後に配布した。
- ④本学は正倉院文書に登場する人達が実際に往来した道筋上に位置する。この貴重な環境に対して知的興味を喚起するため、登場人物の紹介をネームホルダーの裏にはさんだ。

### 【当日のスケジュール】

《午前9時集合》科研費の説明と自己紹介。自己紹介の際ネームホルダーの中の1300年前に実在した人物の紹介文を読んでもらう。個々について補足説明を行う(帰る際、全員分の紹介文を配布)。教科書には出てこないが、実在する人物でしかも大学の近辺を歩いていたことを想像してみる。

《実習①てがみを書く》現代の私たちは手紙をどう書くだろうか。場面設定が書かれた紙を参加者に配り、各自それに従って簡単な手紙を書いてもらう。文章のほかにメールやラインのように、あらかじめ用意しておいたスタンプや絵文字を自由に貼ってもらう。



《実習②奈良時代の書状を観察する》次に研究対象となる書状の観察。部屋の両側にずらりと並んだ奈良時代の手紙を観察。会場は「奈良時代の書状展」さながらに、「ちょっとモダンなギャラリー」のような雰囲気、子供達も保護者も食い入るように、見たこともない個性的な書状を見つめる。

《授業①観察報告と解説及び今と奈良時代の比較》参加者に気になる書状を選んでもらい一人ずつ何が気になるのか発表してもらおう。それについて実施者が比較史料等を提示しつつ研究点を解説する。



★最初に自分たちが書いた手紙と奈良時代の手紙を比較してみる。すると意外な共通点が見つかってみんなビックリ。着眼点の一つ得ることによってそれが突破口となることを体験してもらおう。

★ここで初めて解説集を参加者に配ると、みなすでに着眼点を得ているため興味津々でめくり始めた。

★最後に奈良時代の書状を今風に訳して伝えたい気持ちは現代と同じだったことを実感してもらった。



### 《大学の学食体験》

お昼は「ひらめき食券」を持っていざ学食へ。各自トレイを持って大学生に混じって並んだおかずの中から食べたいおかずをチョイス。麺類・丼物・サラダにデザート、みんな上手にとれて完食！  
昼からはバスで法華寺と平城宮跡を通過して奈良文化財研究所へ移動。

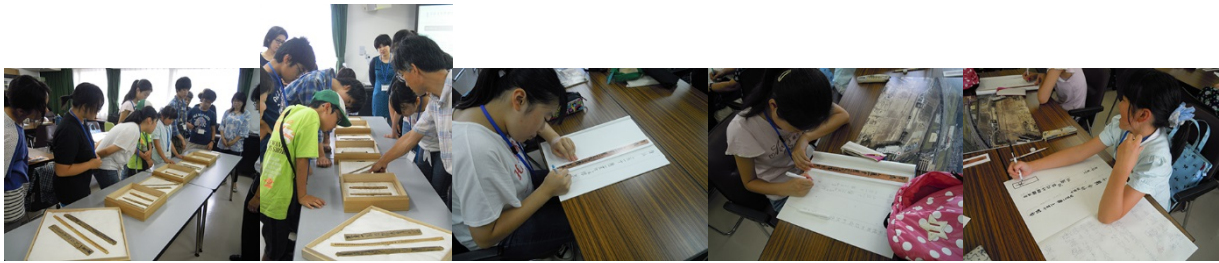
《授業②未来へ伝えよう、1300年前のことば》未来の人へ手渡す、1300年前に書かれた言葉(木簡)がどのようにして掘り出されてから保存されていくのかを見学。帽子をかぶって、いざ20万点に及ぶ木簡が収蔵されている木簡庫へ。まずは木簡庫の外で、掘り出された土がコンテナで運ばれてきてシートをかけられたまま屋外で整理の順番待ちをしているところから見学を開始。



★木器木簡整理室では木簡の洗い出し・選別作業の様子を見る。様々な遺物を土の中から発見して行く様子とともに木簡の削屑の整理状況を観察。洗い出されたばかりの木簡を見る。整理後、保管用のバットに水に浸かった状態で保管されている様子を見る。

★木簡庫ではさらに告知札木簡や蘇の進上木簡などを観察し参加者に読んでもらう。





《実習③挑戦してみよう、木簡の解読》小休止ののち奈良文化財研究所庁舎の多目的室で、今度は科学的な保存処理を行った木簡の実物を見学。引き続き木簡の手作りレプリカを参加者に配布し解読に挑戦。まずは基本である「記帳」作業から。墨跡を追うことで文字をおこす。参加者の記帳作業を振り返る形で実際に何が書いてあるのか解説・説明。



★最後に奈文研の木簡の文字画像データベース「木簡字典」（奈文研科研費）と今秋公開予定の「正倉院文書書状字典データベース」（奈文研・黒田科研費）を説明し参加者に実際に操作に挑戦してもらう。

★クッキータイム。おやつを食べながらアンケート記入と未来大使の証書を受け取る。

★バスで再び平城宮跡を横切って大学に戻り、書状パネルのおみやげをもって解散。

### 【事務局との協力体制】

研究協力課研究協力係が連絡・調整、提出書類の確認を行った。総務・企画課評価広報係が記者クラブ（報道機関 17 社）への情報提供、大学のHP等に掲載、大学管内の掲示板にポスターを掲示した。

### 【広報活動】

奈良市及び生駒市・木津川市の全中学・公立図書館及び近畿の主要博物館施設にポスターとチラシを送付した。また、大学周辺の中学校はすべて直接訪問して勧誘に努めた。近畿在住の教職関係の卒業生に協力を求めた。奈良文化財研究所ではチラシ配布のほかボランティアスタッフ 120 名に周知して勧誘の呼びかけをしてもらった。また朝日・読売・毎日の新聞三社の奈良版に報道記事が掲載された。

### 【安全配慮】

保健管理センターの医師（高橋裕子(内科)）が小中学生対象の救急セットを特別に考案しそれを終日携帯した。熱中症に備えて研究協力課が保冷用品を用意したほか体調不良者を想定してセンターの研究員 2 名と学生 3 名をあらかじめ待機させた。環境安全管理センターの守衛員が登校してくる子供の案内誘導を行った。書状パネルで参加者が手を切らないように、カット面の角度に細心の注意を払った。

### 【今後の発展性・課題】

奈良は歴史の宝庫である。正倉院文書をはじめとする文書類や発掘された出土資料が多数存在する。今回対象としたのが草書の書状や黒ずんだ木簡であるにも関わらず、子供達は食い入るように眺めてくれた。普段、教科書でしか歴史を学ぶことのない子供達に、生の史料を直接見せる機会は皆無に等しいが、奈良という地の利を生かして歴史の魅力を伝えて行くことはまだまだ可能であり発展性が見いだせる。そのためには史料ごとに個別の工夫をする必要もあろう。また、子供達に歴史史料を直接見せることによって想像力を刺激し、実物から鼓舞されるもので子供達を焚き付け、それらを未来に伝えていくことの大切さをいかに伝えて行くかと言った点も今後の課題である。

### 【実施分担者】

【実施協力者】     5     名

【事務担当者】山下 ひとみ 研究協力課研究協力係長